

【プロローグ】—— 私たちの進むべき道——

i

【第1章】伝統的人間観の行きづまり

1

本書について 7

揺らぐ「自己」観 9

二元論的世界の問題——「外的世界」vs.「内的世界」／知識の問題——鏡としての心／自分の心がわかると

は？——内なる眼という問題

激しさをます嵐——真理、理性、道徳 20

客観性、真理、科学の問い／理性と教育の役割／道徳と責任／ポストモダンの胎動

学問世界の動揺——言語の重要性 30

第一の事件——言葉は、現実をありのままに写しとるものではない／第二の事件——価値中立的な言明など
存在しない／第三の事件——記号論から脱構築へ／絶望から新しい未来へ

本章をふりかえって 47

【第2章】共同体による構成——事実と価値

51

新しい言語観——写し絵からゲームへ 52

言語ゲーム／生活形式と「事実ゲーム」

イデオロギー批判の見直し	57
精神病——フーコーとその後	
文学批評の見直し——テキストから共同体の中の言語へ	63
アイデンティティの政治学	
社会構成主義の四つのテーゼ	71
私たちが世界や自己を理解するために用いる言葉は、「事実」によって規定されない／記述や説明、そしてあらゆる表現の形式は、人々の関係から意味を与えられる／私たちは、何かを記述したり説明したり、あるいは別の方法で表現したりする時、同時に、自分たちの未来をも創造している／自分たちの理解のあり方について反省することが、明るい未来にとって不可欠である	
科学的知識の社会的構成	76
何が科学的事実であるかは科学者コミュニティによって決定される／「新しい」科学的事実は複雑に入り組んだ関係性の産物である	
本章をふりかえって	86
【第3章】対話の力——明日を創る試み	93
構造としての対話——生活の指針となるメタファー	97
心のメタファー	
構造としての対話——物語（ナラティブ）的現実	102
自己についての語り	
説得としての対話——レトリックというレンズ	108
客観性のレトリック	
プロセスとしての対話——実用的な次元	114
ゴフマンとガーフィンケルの遺産	
自己の会話的構成	120
「存在論」「倫理」「自己」の創造／社会的な釈明——アイデンティティと責任	
本章をふりかえって	127
【第4章】社会構成主義の地平	135
実証研究に対する疑問	136
優れた実証研究とみなされるための五つの基準／実証研究がもたらした成果	
現代における私たちの生活を探究する——質的研究	143
語り（ナラティブ）——人々が生きている世界をつなぐ／共同的研究／アクションリサーチ——社会変革のうねり	
歴史的・文化的探究——自己って何？	152
「自己」の歴史的変遷／異文化研究、自文化理解	
本章をふりかえって	168
【第5章】「個人主義的な自己」から「関係性の中の自己」へ	173
生成的理論	173
個人主義とイデオロギー	176
「孤立した魂」という問題／手段としての他者／見せかけだけの関係／「周りほみな敵」という悲劇／権力の問題／社会的なものの軽視	
関係としての自己——第一ステップ	183
象徴的相互作用論／文化心理学／現象学と他者	

関係の中の存在——新たなビジョン	193
バフチンと対話主義／関係の中の存在	
本章をふりかえって	205
【第6章】理論と実践(1)——対話のもつ可能性	211
解釈学的な問い——「心」から「関係」へ	212
「真実の」解釈をもたらす方法はあるか／意味は関係の中から生み出される	
三つのD——対話 (Dialogue)、言説 (Discourse)、差異 (Difference)	219
他者性と意味の終わり／第一のアプローチ——議論、取引、交渉、調停／第二のアプローチ——ハーバーマ	
スと対話の倫理	
変化力のある対話へ向けて——第三のアプローチ	228
非難から関係の中の責任へ／自己表出の重要性／他者を肯定すること／行為を調和させること——即興のす	
すめ／自己内省——多声性への期待／新しい世界の共同的創造	
本章をふりかえって	243
【第7章】理論と実践(2)——心理療法・組織変革・教育・研究	247
社会的構成としてのセラピー	248
解決中心療法——ブリーフ・エンカウンターの力／ナラティブ・セラピー／多声的な共同実践——複数の意	
味がもたらす実り	
組織における意味の創造	260
価値を認めようとする問い——対立から共同体へ／未来の探求と共同体の構築	
教育——共同の実践と共同体	265
じっくりと考え、反省すること／教室での共同の実践／多声的な教育学	
学問的表現——新しい世界製作の方法	272
「一人の人間」の視点に立つこと——具体的な記述／内省と多声性——私は誰？／多様な声のるつぽ／パフォ	
ーマティヴに向けて	
本章をふりかえって	280
【第8章】理論と実践(3)——マスメディア・権力・インターネット	287
意味の渦	289
メディアと操作／犠牲者から復讐者へ——「行動する視聴者」／仮想の世界を泳ぐ	
権力のパターン	300
権力——ポスト構造主義の視点	
テクノロジと社会	308
インターネット——新たな共同体？ それとも単なる虚構？／サイボーグ——私と機械は一心同体	
本章をふりかえって	318
【第9章】「批判に答える」	325
現実主義——「だって、確かに世界はそこにあるじゃないか！」	328
経験や心的状態に関する疑問	331
懐疑主義の矛盾	334
相対主義の弊害	338
何がなすに値するのか——関与に関する問い	344
社会構成主義とエリート主義の危険性	346

社会構成主義と科学の進歩
本章をふりかえって
352

349

訳者あとがき
355

事項索引
364

人名索引
367